

## 第一次世界大戦後の中国・朝鮮・日本

第一次世界大戦で列強資本主義国がアジアから後退すると、東アジアは空前の好景気にわいた。

日本の工業生産は大幅に増加し、初めて農業生産を上回った。中国でも民族資本が成長し紡績などの大経営が行われたが、**在華紡**※1（日系資本によって経営された紡績業）には対抗できなかった。

※1 第一次世界大戦から戦後にかけて日本国内における賃金上昇と国際労働機関加盟に伴う深夜業禁止政策などをきっかけに日本の大手紡績業の多くが上海・青島などの中国都市に進出した。在華紡は欧米系企業とは異なり、日本の従来の経営形態を持ち込み、現地の住民を日本国内の半額程度の安い賃金で雇用し、1925年には日本国内の1/4を占めるようになった。

中国でも都市労働者の数は増え、学生などの社会の木鐸たりうる青年知識人も増加した。第一次世界大戦で、ドイツ帝国とオーストリア=ハンガリー帝国は消滅、オスマン帝国は弱体化し、民族自決権が提唱され、さらには大戦中にロシアで社会主義革命が成功した。このような情勢が知識人や労働者に大きな影響を与えないはずがなく、東アジア各地に社会運動・民族運動が活発化した。このことについて以下に述べていく。

## 新文化運動（中国）

二十一か条の要求※2を受諾するという状況に危機感を抱く知識人たちは行動を起こした。中国の文化を革新することで未来を切り開こうとする運動を【1: 】という。五・四運動にも大きな影響を与えた。

①【2: 】ちんどくしゅう 1879-1942 は、1915年に上海で『青年雑誌』を発刊、翌年『【3: 】』と改称した。「民主と科学」を旗印に欧米の思想を紹介し、封建制度と儒教思想を厳しく批判した。

②【4: 】こせき 1891-1962 は、1917年、『新青年』誌上で口語文による創作を提唱し、【5: 】（ないしは白話運動）を始めた。これに応じて【6: 】ろじん 1881-1936 は、辛辣な社会批判を含む『狂人日記』『阿Q正伝』などを発表した。もちろん『新青年』刊行者の陳独秀もこの運動に加わる。

『新青年』が無政府主義・共産主義へと傾いて政治を語るようになると、胡適は李大釗と「問題と主義」論争を起こし、社会主義を空論として批判し、『新青年』を離れた。中国共産党成立後は、その機関誌となった。

③ロシア革命が起きると、文学革命の中心となった北京大学では、【7: 】りたいしょう 1889-1927 や陳独秀がマルクス主義に興味を寄せた。ソヴィエト政権が、【8: 】(1919)で帝政ロシアが中国で獲得した利権の放棄※3を宣言すると、ソヴィエト政権への関心は一層高まり、ボリシェヴィキは共産党の結成を目的に組織者を中国に送りこんだ。

1921年、【9: 】が発足した。初代委員長は【10: 】※4である。

※2 二十一か条要求とは、1915年、第二次大隈重信内閣が袁世凱政権に要求した文書。①山東省ドイツ権益の譲渡。②南満州・内モンゴル権益の99カ年延長と鉄道敷設権。③漢冶萍公司の日中共同経営。④福建省を他国に渡さず日本の勢力圏にすることの確認。⑤中国政府の顧問として日本人を採用すること。……最後通牒が発せられると、⑤を除外して、袁世凱政権はこれを承認した。その日、5月9日は国恥記念日とされた。二十一か条要求は、中国の民族主義運動を高揚させ、欧米諸国に日本への警戒心を抱かせた。1922年の九カ国条約で、日本の中国進出は二十一か条要求以前に戻された。

※3 翌1920年の再宣言では東清鉄道を除外するなど若干の後退をみた。

※4 1927年、陳独秀は国共合作（第一次）失敗の責任を追及されて委員長を辞任。その後、トロツキーの思想に共鳴、1929年にはコミンテルンを批判して党を除名された。

## 大正期の日本

米騒動については、No.172参照

大正期の日本は、「【11: 】」と呼ばれる自由主義、民主主義の高揚期で、社会主義への関心とともに労働運動・農民運動が活発化した。外見だけの立憲主義の大日本帝国憲法下にもかかわらず、1924年成立の加藤高明（護憲三派）内閣から1931年成立の犬養毅内閣まで、**衆議院の多数政党が内閣を構成する議院内閣制のルール**が行われた（それ以前は元老が次の内閣主班を推奏した）。これを「憲政の常道」と言う。しかし、現実には財閥と結びついた政党は腐敗しており、これを崩壊させることで現状を打破しようという左右両極からする運動も活発化した。大正デモクラシーの帰結は、1925年の男性普通選挙の実現である。しかし、**普通選挙法**と同時に帝国議会を通過したのは「世紀の悪法」と言われる【12: 】である。これは反体制運動全般を取り締まる万能法だった。

## 三・一独立運動（朝鮮）

1) 日本に併合された朝鮮では、【13: 】の下で、厳しい【14: 】が行われ、民族運動の展開は不可能だった。なお、総督府は、併合前は、**統監府**（1906年2月設置）と言った。

初代統監【15: 】を射殺（1909年10月26日）した【16: 】の肖像は韓国では切手になっている。言論・集会・結社の自由は、ほぼ無かったが、民族愛国教育運動は粘り強く続けられ、中国吉林省や上海、アメリカなど国外に民族運動の拠点が作られた。【17: 】で申告漏れの土地や所有者が明確でないと言われた土地が取り上げられた。多数の朝鮮人農民が土地を奪われ、朝鮮経済は破壊され、大勢の朝鮮人が仕事を求めて中国、中国東北部、日本、ロシア、アメリカへ安価な労働力として海を渡った！仕事を求めて行った日本では、1923年【18: 】直後の関東地方で【19: 】が行われた。犠牲者は約6600名。原因は流言飛語とされるが異説もある。

2) 朝鮮の民衆は、パリ講和会議の原則とされた【20: 】に大きな希望をいだいた。いくつかの団体はパリ講和会議に代表団を送ろうとしたが阻止された。独立運動の口火は、日本にいた朝鮮人留学生によってつけられた。アメリカ大統領ウィルソンが発表した「民族自決主義」に刺激された彼らは、東京・神田で独立宣言文を発表し、宣言書をひそかに祖国へ持ち込んだ。彼らが民族独立の意思を世界に表明すれば、協商国も支持してくれると考えたのも、無理からぬ

ことである。

1919年、急死した高宗の国葬(日本による毒殺説がある)のために人びとが各地からぞくぞくと集まるソウル中心部のパゴダ公園で、1919年3月1日、独立宣言が公表された。数千の群衆は湧き立ち、公園から街頭へと、手に手に太極旗(テグッキ)を振り、「大韓独立萬歳!(テハン トンニブマンセ)」と、さげびながら行進した。「テハン トンニブマンセ!」その声は、マンセー、マンセーとこだまし渦巻き、ソウル市内50万人もの一大示威行進になった。

「大韓独立萬歳」(テハン トンニブ マンセー)と叫びながら行進する民衆のデモが朝鮮各地で起きた。全国で200万人が参加する大運動に発展。これが【21: 】である。朝鮮総督府は、破壊活動を伴わないデモ行進に対し、武器を使用したと言われていた。犠牲者7500人、逮捕者4万人。これを境に朝鮮総督府は「武断政治」から「【22: 】」と呼ばれる同化政策に変更を余儀なくされた。それによって各種の社会運動や民族運動がより一層展開された。1919年4月には、上海で大韓民国臨時政府が結成された。

なお、朝鮮総督は現役または予備役の陸海軍大將が歴任した。1919年の【22】への転換以降は文官でも就任できることになったが、実際には現役または予備役の陸海軍大將が就任している。 16W

《2004年センター試験第1問Bのリード文》 「私たちは先生に率いられて街に出、何千という他の学校の生徒や街の人々と隊伍を組み、歌ったりスローガンを叫んだりしながら町中を行進した。私は夢中になって終日食することを忘れた。何百万という朝鮮人が、この三月一日には食を忘れたと思う。私たちが通ったとき、一人の白髪の老人がしゃがれた声で叫んだ、「見ろ、わしは死ぬ前に朝鮮の独立に会えるのだぞ!」。(ニム=ウェールズ・キム=サン『アリランの歌』松平い子訳)

《大韓民国では常識》 ソウルの寄宿制女子校に学んでいた地方出身の優秀な女学生、ユ・ガンスン(柳寛順)はソウルで三・一独立運動を見た。出身地の町で独立運動を呼びかけた彼女は、大規模なデモを組織したため、逮捕投獄され、拷問により死亡したと言われている。韓国では誰でも知っている歴史上の人物であるにもかかわらず、第一次史料がほとんどなく、確かなことは分かっていない。大韓民国を旅行中にチマ=チョゴリで胸を張って前を見つめる女学生の銅像があったら、それはたぶん韓国のジャンヌ=ダルク、ユ・ガンスンの像である。

## 五・四運動(中国)

- 1) 第一次世界大戦が勃発すると、日英同盟を締結している日本は協商国側で参戦、ドイツに宣戦布告し、1914年11月には膠州湾を占領して山東半島のドイツ租借地を占領、太平洋上のドイツ南洋諸島も占領。1915年1月、袁世凱政権に二十一カ条の要求をつきつけ、同年5月、そのほとんどを受諾させた。しかし、中国もアメリカの参戦後にドイツなどに宣戦したから、中国もパリ講和会議では戦勝国であった。
- 2) 第一次世界大戦終了後、【23: 】において、中国代表は【24: 】の撤回など主権の完全回復を求めたが、日本の反対で会議はこれを認めなかった。  
【25: 】のドイツ権益が日本に譲渡されることを知った北京の学生たちは憤激し、4月には抗議行動を起こした。これに触発され、5月4日、北京で始まった運動は全国に広まり、ストライキも発生した。運動の性格は、既に反帝国主義、反封建主義、軍閥打倒の全国的な民衆運動だった。これを【26: 】と言う。五・四運動の結果、パリ講和会議中国代表団は、段祺瑞が率いる北京政府の命令に反して、**ヴェルサイユ条約の調印を拒否した!** 平和的な大衆運動が政府を動かした画期的な例である!
- 3) ヴェルサイユ条約の調印は拒否したが、同じく国際連盟規約を第1編に持つ【27: 】※5に調印して、1920年1月10日、中華民国は原加盟国として【28: 】に加盟した。段祺瑞※6も7月には実権を失った。  
※5 本来はオーストリアと協商国の条約である。  
※6 段祺瑞は袁世凱(1916年没)のあとを受けて北京政権の実権を握った軍閥政治家。孫文らの南方革命勢力(中心は広州にあった)と対抗させ、中国の政治的混乱を助長するため、寺内正毅内閣は1917~18年、総額1億4500万円の西原借款を与えた。段祺瑞は協商国の立場で第一次世界大戦に参戦した。
- 4) パリ講和会議では日本はドイツ権益の継承を認められ、赤道以北の旧ドイツ領南洋諸島※7の委任統治権も得た。しかし、列強は東アジアにおける日本の勢力伸長に警戒心を強め※8、1921~22年のワシントン会議では、【29: 】で中国の主権尊重と領土保全を約束し、二十一カ条要求以前の状態に戻した。日中間交渉で山東の旧ドイツ権益も中国に返還された。  
※7 現在の北マリアナ諸島・パラオ・マーシャル諸島・ミクロネシア連邦に相当する地域。  
※8 しかし、1917年の時点では、アメリカは日本と石井・ランシング協定を結び、日本の中国における特殊権益を承認していた。これも1922年の九カ国条約で廃案が提起され、1923年に廃棄された。

## 2013 大学入試センター(抜粋・改変)

問2 中華民国の歴史について述べた文として正しいものを、次の①~④のうちから一つ選べ。

- ① 山東半島のフランス利権をめぐる、五・四運動が起こった。
- ② 五・四運動は、上海での学生デモから始まった。
- ③ パリ講和会議に参加し、ヴェルサイユ条約に調印した。
- ④ ワシントン会議に参加し、九カ国条約に調印した。

正解④

## 2016 早稲田大学(抜粋・改変)

2 下線部b(朝鮮半島における日本による植民地支配)に関する記述のうち、誤りを含むものはどれか。

- イ 朝鮮総督は陸海軍の大將のなかから選ばれていたが、三・一独立運動後の「文化政治」の時期には、文官が総督に任命された。
- ロ 1930年代後半から展開された皇民化運動で、「創氏改名」という同化政策が強行された。
- ハ 第二次世界大戦末期には、徴兵制が実施された。
- ニ 三・一独立運動後、独立運動団体の一つとして上海に大韓民国臨時政府が結成された。

正解イ